

看護職員の負担の軽減および処遇の改善に対する計画書

(目的)

1. 看護職員の負担軽減及び処遇改善委員会（以下「委員会」という。）

は、看護職員の負担軽減及び処遇の改善に努め、労働環境の改善を図ることを目的とする。

病床規模：193床 看護職員合計 100名+作業療法士1名（認知症治療病棟専属）

看護師：常勤37名・非常勤8名

准看護師：常勤28名・非常勤5名

看護補助者：常勤20名・非常勤2名

項目	計画	実行	評価
育児休業（0名） 育児短時間就労〔2名〕 産休（1名） 介護休業（0名）	<ul style="list-style-type: none"> 多様な勤務形態の取り入れ 夜勤の免除 短時間勤務 夜勤3人体制（2F） 	人員配置 常勤・非常勤採用	多様な時間帯での勤務により働きやすい環境を整えた。 夜勤希望の看護補助者を2Fの認知症治療病棟へ配置。夜勤3人体制により、負担軽減につなげた。
業務	<ul style="list-style-type: none"> 看護補助者の業務の明確化 看護補助の業務拡大 師長研修会 看護補助者の増員 他職種との業務分担 残業0を目指す 	研修会参加 メッセンジャー 院外研修会参加予定 病棟内送迎などは、その部署の助手業務	看護補助者の業務マニュアル作成 看護補助者のメッセンジャー稼働 精神科病院協会・日精看研修参加 多職種と協力・連携での役割分担 看護補助者の入職あるも、数的には今後の退職を考えると不安あり
夜勤業務	<ul style="list-style-type: none"> 準夜～日勤の勤務は作らない 負担のない夜勤勤務作成 確実な休憩時間の確保 救急輪番日負担軽減 看護補助者の夜勤サポート 負担病棟の軽減 2交替・3交替の導入 夜勤3人体制（2F） 	勤務表監査 同上 夜勤専従導入 夜勤者増員（2F） 遅出・昼勤務 遅出1名増員 配置転換にて増員 アンケート実施	選択制の夜勤（2交替・3交替）を導入実践中。休憩時間は確保できている。救急輪番については当直制ではなく、準夜・深夜の交代制によって心労を減らしている。介護介入の負担が大きい病棟は、遅出1名増員や夜勤3人体制を導入することで負担を減らしている。
身体合併症	<ul style="list-style-type: none"> 専門性の高い疾病は専門病院へ転院 	本人と家族へ入院時や病状悪化時に意向を確認	本人の意思確認ができない場合は家族の意向を医師が介入し、方向性の確認ができている。